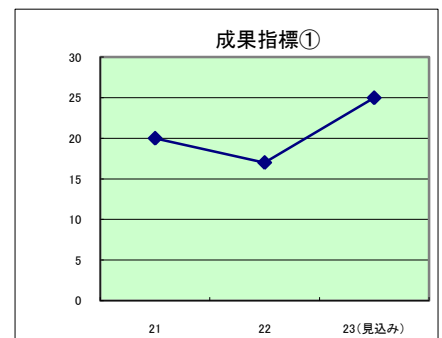
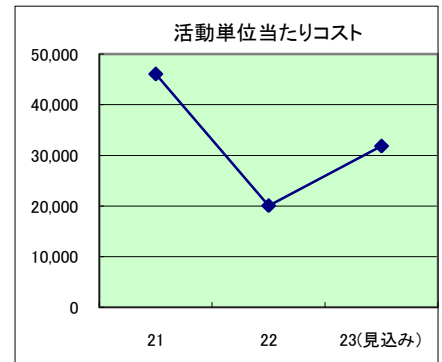


事務事業名	野外活動推進事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち	款	10	教育費
	施策(節)	3	青少年の健全育成	項	5	社会教育費
	施策の方向	(2)	健全育成の環境づくり	目	2	青少年育成費
				事業	7	野外学習施設
関連する計画等			作成部署	教育委員会事務局生涯学習室社会教育課		
事業の目的	対象(誰を・何を)		連絡先	072-958-1111 内線 4451		
	主として青少年					
	意図(どういう状態にしたいのか)		自然とふれあえる体験活動の場を提供し、野外活動を通じて青少年の健全な育成を図る。			
事業の内容	奈良県山添村の生涯学習施設を、羽曳野市の青少年野外活動施設として提供。その他、平成21年度に整備した、駒ヶ谷地区のグレープヒルスポーツ公園キャンプ場「ふれ愛広場」や、平成22年度にオープンした同スポーツ公園の管理棟の宿泊室を提供。今後はこれら施設の利用促進に向け、広報やポスターによる周知活動の他、青少年活動団体の事業招致、市主催事業等を利用した、利用活性化を図っていく。					
根拠法令等	羽曳野市グレープヒルスポーツ公園条例					
事業開始時期	☐ 昭和 14 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度	平成 年度		
事業開始時からの状況変化	山添村生涯学習施設は、事業形態を以前の専用施設から一部目的外使用に変更し、臨時職員の引き上げ等の事業費節減を行った。グレープヒルスポーツ公園においては、平成21年度にキャンプ場を整備し、平成22年度には、管理棟を宿泊可能な施設に改修した。					
市民や議会の要望	山添村生涯学習施設を例年利用されている市民や青少年活動団体からは、継続して利用できるよう要望がある。					
実施手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☒ 市外郭団体委託 名称(羽曳野市施設管理公社)		委託内容	グレープヒルスポーツ公園管理業務委託		
	☐ 民間委託 ☐ その他					

区 分		21年度	22年度	23年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		4,866	1,210	2,700
人件費【2】 (千円)		1,125	1,440	1,440
職員数	正規職員	0.15 人	0.20 人	0.20 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		5,991	2,650	4,140
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	5,991	2,650	4,140
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		21年度	22年度	23年度(見込み)
①	山添村施設開館日数 日	130	132	130
②	ふれ愛広場開館日数 日	237	359	359
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		46,085 円	20,076 円	31,846 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		50 円	22 円	35 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度
	①	山添村稼働率 (式) 利用日数÷開館日数	%	開館日に対する利用日の割合を算出し、利用頻度の指標を設定する	目標	25	25	達成率(%)	25
					実績	20	17	68.0%	
	②	ふれ愛広場稼働率 (式) 利用日数÷開館日数	%	開館日に対する利用日の割合を算出し、利用頻度の指標を設定する	目標	25	25	達成率(%)	25
					実績	12	18	72.0%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	青少年の健全育成を推進するにあたり、キャンプなどの野外活動を手軽に体験できる環境づくりを行う。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	山添村生涯学習施設については、利用している市民や団体からの継続利用に関する要望は高く、リピーターが中心。今後は、グレイプヒルふれ愛広場の利用の状況を把握し、今後の利用を検討する必要がある。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☒	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☐	☐	☒	
		緊急性が認められる	☐	☐	☒	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	山添村の継続利用に関しては、受益者負担の原則も踏まえ、利用方法について検討が必要と思われる。ふれ愛広場の負担については妥当と考える。
		受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☒	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	事業目的は明確であるが、成果向上やサービス内容は今後の検討課題と思われる。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	現在までは、市が率先して企画し提供しており、今後は市民の意見を取得できる環境づくりを検討する必要があると感じている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	現在までの各施設の稼働はほぼ休日を中心であり、今後も変わる見込みはない。指標としては、休日が完全に稼働する程度を見込んでいる。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☒ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	山添村の生涯学習施設と、グレイプヒルススポーツ公園の施設とは、同じ野外活動施設であるが、双方にはそれぞれの特徴があり、一方だけで全ての要望を満たすことは難しいと考えるが、今後のあり方について、検討を行う。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
	山添村の生涯学習施設については、グレイプヒルススポーツ公園のふれ愛広場の利用状況を見ながら、今後のあり方について検討を行う。	

行革本部評価	総合評価			評価理由・意見		
	☒ 拡大・充実	☐ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民営化・民間委託	☐ 縮小	☐ 廃止・休止
	☐ 民営化・民間委託	☐ 縮小	☐ 廃止・休止	☐ 完了		